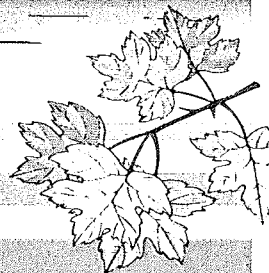


我孫子市戦後60周年記念平和事業

平和を語ろう!



第1部:原爆の地「広島」を見てきた中学生による発表

第2部:リレートーク「戦争ってなに?平和ってなに?」

第1部

広島市平和記念式典に派遣した中学生の発表会

我孫子市は、去る8月6日に行われた広島市の平和記念式典に、市内の6中学校から代表生徒を各1名ずつ派遣しました。生徒たちは、式典への参列のほか、「ひろしま被爆体験証言グループ」の方の案内で、広島平和記念資料館や旧広島県立第二中学校慰霊碑などを訪れました。こうした原爆投下の地で学んだこと、感じたことなどを、生徒たちが企画・運営して市民の皆さんに発表します。

家族の皆さんで
聴きにきて!



第2部

リレートーク「戦争ってなに?平和ってなに?」

発言者

- ・広島市平和記念式典に参列した中学生2名
- ・高校生2名
- ・大学生1名
- ・30歳代の医師1名
- ・40歳代の会社員1名
- ・東京大空襲体験者1名
- ・被爆体験者1名

コーディネーター

中村 攻 (なかむら おさむ) 千葉大学教授

日時:9月19日(祝)12時30分開場、午後1時から

場所:我孫子市民会館 大ホール

入場料:無料

主催:我孫子市

問合せ:我孫子市企画調整担当 04-7185-1426

「平和を語ろう」

第1部 原爆の地「広島」を見てきた中学生による発表

事業の概要

市内6中学校から、各校1名の代表生徒を選出し、広島で開催された平和記念式典へ自治体（我孫子市）代表として派遣しました。

行程は3日間でしたが、平和式典に参加して広島市長の平和宣言を聞き、みんなで献花をして平和の誓いを行うとともに、平和記念資料館の見学などで、広島原爆のすさまじさを感じ取りました。

また、2日間にわたって被爆者体験証言グループの方から被爆当時の話を聞くとともに、みんなで持って行った千羽鶴の献納もしてきました。

派遣した6人が、3日間の行程で感じたこと、平和への願い等について、映像を用いながら1時間ほど発表しました。

開催日時：平成17年9月19日

開催場所：我孫子民会館

第2部 中学生、高校生、戦争体験者などによるリレートーク

テーマ「戦争ってなに？平和ってなに？」

事業の概要

コーディネーターを千葉大学の中村 攻 教授が務め、広島市平和記念式典に派遣した中学生2名、高校生2名（我孫子高校、中央学院高校）、大学生1名（川村学園女子大学）、医師1名（30代）、会社員1名（40代）、戦争体験者2名（原爆被爆体験者、東京大空襲体験者）の各世代の代表9名が「戦争のない平和な社会を築いていくために何をすればよいか」などについて熱く語った。

開催日時：平成17年9月19日（月・祝）午後1時

開催場所：市民会館大ホール

アンケートの結果

【小学生：男】戦争や紛争は未だに続いているが、止めることは出来ないのかと思う。戦争をしていることで人々が不安になり、安心して生活をする事が出来ない。戦争をしないことで、人々

が生活を安心して送ることができ、また、幸せになることができるから戦争は止めるべきだと思う。今、日本は平和だけれども、対照的にイラクやアフガニスタンなどの戦争や紛争が続いて困っている国もある。世界の全ての人々が幸せになるように、平和な国は病気の人のための薬、資金を送るべきだと思う。また、困っている国に住む人々の気持ちを考えることも大切だと思う。まだ僕は小学生で、募金するぐらいしか出来ないけれども、大人になったら危険だけれど出来れば紛争などが起きている国に行って、困っている人の手助けをしたいと思う。

【20代：男】とても価値のある試みだと思う。自由参加も良いが、早い段階で募集をかけてもよいのではないだろうか。また、時期をより終戦記念日に近づけて、世間の関心が高いころに開催してもよいのではないだろうか。

【40代：男】私は、自分が中学生・高校生の頃に、平和教育を受けた団塊世代ジュニア世代の一人ですが、その時に感じた平和についての思いを、どういうわけかこの約20年間の社会人生活（身を滅ぼすような激務）の中で、どこかに忘れてきてしまったように思います。今日、改めて私も平和学習する機会を与えられて、このような機会が私達の世代に（必ず行き渡るように）行われたなら、日本は変わっていくと思えました。海外の同世代の人々に比べても、日本は被爆体験国であるにもかかわらず、平和への意識（または、大きな意味での“人間力”）が弱いように思います。私たちの世代を再教育する必要性は他にもあります。今後、父親や母親になっていくからです（既に子を持つ人も多い）。ですので、親の教育もまた（子供の学校での教育問題同様に）必要だと思えました。

【40代：女】素晴らしい貴重な企画をありがとうございます。もっとたくさんの、これからの世界を作っていく子供たちが参加したら、なおよかったと思います。私たち大人には、二度と過ちを犯させないよう、この事実を語り継いでゆく使命があると思います。

【50代：男】中学生の広島派遣体験は、非常に良い企画であったと思います。せっかくの発表の場に、観客が異常に少ないのは残念です。各学校単位での参加が望ましいと感じました。

【50代：女】大変素晴らしい会であったと思います。内容がとても充実していたこと、子どもたち（若い人）が本当にしっかりしていて、うれしいかぎりですね。もっと多くの参加者があれば・・・と思いますけど。こんなものではないかな～とも思います。是非、参加者数にとらわれず、このような機会を続けて欲しいです。本当にまとまりのある又、広い視野からの考え方、発言に、来て良かったと思います。平和は、私達1人1人が作り守るものです。強く思いました。

【50代：女】とても大切なことと思う。毎年、若人を被爆地に送り出して欲しい。もしできれば、一校から二人いけたら帰ってから話ができるのではないかな。学校では、報告会などしましたか？もっと学校サイドの参加が欲しかった。こんな素晴らしい報告を少数で聞くのはもったいないです。毎年、学校で体験者を招いて話を聞いたらいい。イデオロギーを越えて、市民レベルで考え行動できる場として、大切だと思います。

【60代：女】10代・20代～各世代の考えが聴ける又とない場をご提供いただき、感謝あるのみです。この企画に心より賛辞を送ります。改めて、第九条を堅持すべく声をあげたいと思います。ありがとうございました。

我孫子市戦後60周年記念事業

『戦争と平和』講演会



戦争や紛争下にある国の
市民の暮らしと平和を考える！

10月15日(土)

午後1時から(12時30分開場)

講師:郡 山 総 一 郎(イラクで拘束を受けたフォトジャーナリスト)

きくちゆ み(グローバルピース平和活動家)

松 村 五 郎(イラク復興支援派遣部隊長)

場所:市民会館 大ホール

入場:無料

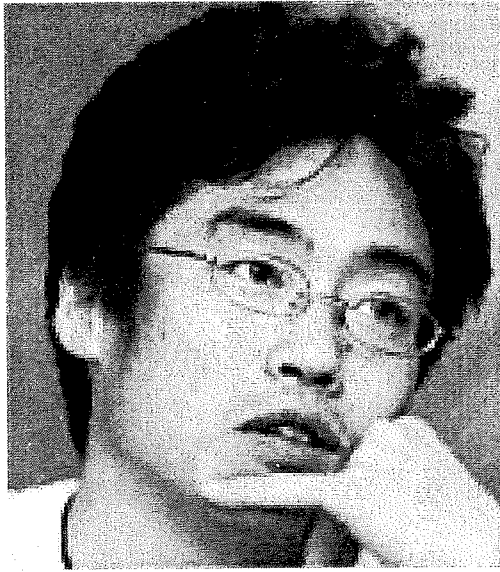
主催:我孫子市

問合せ:企画調整担当 04-7185-1426

郡山総一郎さん

(イラクで拘束されたフォトジャーナリスト)

テーマ「紛争・貧困、私が出会った人そして子どもたち」



写真提供 朝日新聞

プロフィール

2001年「イスラエルの現実」と題した写真で、よみうり写真大賞奨励賞を受賞。2004年4月、イラク取材中に「サラヤ・ムジャヒディン(戦士旅団)」と名乗る武装グループに拘束され、9日後に解放された。

松村五郎さん

(自衛隊第3次イラク復興支援群長)

テーマ「イラク復興支援の現実」



写真提供 岩手日報社

プロフィール

1981年に陸上自衛隊に入隊。2000年3月米陸軍戦略大学留学、2004年7月から12月まで第3次イラク復興支援群長として活躍。現職は陸上幕僚監部運用調整官兼ねて統合幕僚会議事務局第3幕僚室に勤務する。

きくちゆみさん

(グローバルピースキャンペーン代表)

テーマ「メディアでは取り上げない戦争の現実を知ろう」



プロフィール

2001年9月11日アメリカ同時多発テロをきっかけにグローバルピースキャンペーンを立ち上げる。イラク戦争では、イラク市民の側からの映像を世界に発信するなど、国際的な平和活動を展開。

戦争や紛争にある国の市民の暮らしをテーマにした 「戦争と平和」講演会

事業の概要

現在も世界で起きている戦争や紛争について知り、平和の大切さを市民とともに考えることを目的に、イラク問題に焦点をあてた講演会を行いました。講師には、イラクの現地の様子に詳しい、そして立場の全く違う3人をお願いしました。

開催日時：平成17年10月15日（土）午後1時

開催場所：市民会館大ホール

アンケートの結果

【15歳～19歳：男】せっかくの講演なのに入場者が少なくもったいないと思いました。

【20代：女】とても関心があったので初めて来ました。聞きに来ている人の年代が高い気がして悲しいと思う。もっと若い人が参加できるように関心が持てるようなことをしてほしい、というかなければいけないと思います。遠くのことに感じがちな戦争のことを日常の小さなイライラに考える事を面倒がっている自分や同じような若者に気軽に参加でき、自分たちの生活が平和であることをかくにんし合う場をつくってみたい。

【30代：男】立場の異なる講師による講演ということで、一方的でない意見が聞くことができ、大変有意義でした。ぜひ、今後もこのような活動を続けて下さい。

【30代：女】我孫子に住んで10年以上になりますが、初めて我孫子市民でよかったと思いました。非常に素晴らしい講演会でした。友人に声をかけなかったこと後悔しました。60周年の今年をスタートに、これからも毎年続けていっていただきたいと思います。

【30代：男】ありがとうございました。とても勉強になりました。このような企画を聞くことができたのは感謝です。すごくよかった！涙でした。私もがんばって伝えます。

【40代：女】福島浩彦市長は素晴らしい！！あびこに引っ越したいくらいです。福島市長の講演会を開いてほしい。松戸から来ます。今回のイベント～そして記念冊子まで作られること、市民の方と市の方と素晴らしい。ほかの市も見習ってほしい。サマワに行っていた自衛隊の方の生の声がききたくて来ましたが全体がとても良かった。3方と市長、そして千羽鶴や花が飾ってあったこと（とても心がこもっていました。）ありがとうございました。

【40代：女】今回のようにいろいろな立場の人の意見を同時に聞くことはとてもよいことだと思う。平和というと左よりの人ばかりが集まって自己満足の世界にひたっているだけである。両方の立場の人が議論して始めて、一步前進するのではないだろうか。

【40代：女】講演者の方々のお話、とても興味深いものばかりでした。講演者の選出もとても良かったと思います。

【40代：男】日頃の生活に直接関係していないようで、しかし最も大切な平和。その平和について常に市民が関心を持つよう、このような平和事業を自治体が行うことは極めて重要であると思います。国・自治体だからこそイデオロギーにとらわれない戦争と平和に関する情報を発信できるのであり、かかる事業は積極的に行っていくべきで、また、それが、国や各地方自治体の責務でもあると思います。今後とも、このような事業を継続していただくことを切に希望します。

【50代：女】平和の大切さ、戦争反対と言いつらくなってきています。そんな中、勇気を持って（あたりまえのことなのですが）市の行事として取り組んでいただき、とてもよかったです。貴重な情報を得ることができました。今回のことを機に、さらに平和について感心を持っていきます。

【50代：男】素晴らしい企画でした。異なる立場の方のお話を聞いて見えて来るイラク戦争の情報、記者を派遣できないマスコミを通しては得ることのできないものでした。まだ、マスコミ（ジャーナリスト）報道の活発であったベトナム戦争の時代との違いを感じました。また、自衛隊の松村様の「国民は頭脳、自衛隊は手足」大事なことばでした。

【60代：男】3人の方のお話の中で自衛隊の方の話はあまりにも「きれいごと」の話し方だったと思います。莫大な金を使ったのに、その効果は小さかったと思います。この企画された市役所の方に感激しました。市長さんご苦労様でした。

【60代：女】今日は貴重な講演をありがとうございました。行政でこのような内容の講演会をすることは、本当は当然なことなのに、現実は何故か勇気のいることであると思います。我孫子市の福嶋市長さんに拍手です。これからはどの市でも、堂々と胸を張り取り組んでもらいたいものです。

【70歳以上：男】今年の市の平和事業の取り組み、大変良かった。唯、子供達の参加が殆んどなかったのが残念に思います。未来をになう子供に平和の尊さをわからして欲しいと思います。そのための取り組みを市の事業として頑張って続けて下さい。

【70歳以上：男】「我孫子市の平和事業」今後もしっかり継続されることを希望。自衛隊のサマワにおける活動、新聞、テレビでは分らない現地での状況、現地人の喜びなど、涙が出るほど嬉しかった。身につけている「日の丸」が印象的、「日の丸」を理解しない教師がいるが、彼らにもこのような活動を紹介し、理解を深めてもらいたい。国会で野党が反対意見を述べているイラクへの対応、野党の人達は現地状況をどの程度知っているのでしょうか。本日の我孫子市の企画、ありがとうございました。

我孫子市戦後60周年記念平和事業

平和祈念コンサート

世界へひびけ

平和のメッセージ

出演者名（出演順）

朗読（我孫子朗読の会有志）

1. 樹本佳音里（箏曲：二十絃等）

2. めばえ幼稚園母の会コーラス部

3. キンモクセイ

（オカリナアンサンブル）

4. アカペラアンサンブル・レインボー

（女声アカペラアンサンブル）

5. 葦笛（女声合唱）

— 休憩 —

朗読（どんぐりどんぐら）

6. NPO法人 あびこ子ども劇場

（パーカッション合奏）

7. 男声合唱団アンサンブル・レオーネ

8. 久寺家中PTAコーラスサークル

（女声合唱）

9. 戸田かおり、緒形めぐみ

（フルート曲、ピアノ伴奏付き）

10. 島筒英夫（ピアノ、語り、一人二重奏）

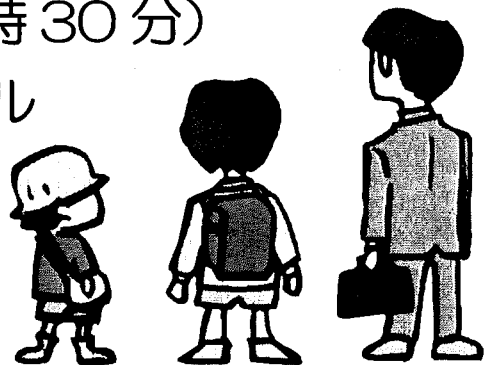
浦 富美（ソプラノ独唱）

2005年10月22日（土）

午後1時～（開場12時30分）

湖北地区公民館 ホール

入場無料、先着順です。
みなさん、来てください！



主催：我孫子市

問合せ：我孫子市企画調整担当 7185-1426



Program

司会 平田 美貴

朗読（我孫子朗読の会有志）

「燃えたはずなのに」 「海水のおかゆ」 「反戦のうた」

1. 樹本佳音里（箏曲：二十絃等）

♪ ラプソディー

2. めばえ幼稚園母の会コーラス部

♪ 組曲「地雷ではなく花をください」

3. キンモクセイ（オカリナアンサンブル）

♪ エーデルワイス

4. アカペラアンサンブル・レインボー（女声アカペラアンサンブル）

♪ 里の秋 ♪ 埴生の宿 ♪ No More War

5. 葦笛（女声合唱）

♪ 女声合唱のためのメドレー「TOKYO物語」

休憩

朗読（どぐりどんぐら）

「せかいいちうつくしいぼくの村」 「死んだ女の子」

6. NPO法人 あびこ子ども劇場（パーカッション合奏）

♪ 子どもが演奏する「大地とのおしゃべり、ほほえみ」

7. 男声合唱団アンサンブル・レオーネ

♪ あなたを知らない

8. 久寺家中PTA コーラスサークル（女声合唱）

♪ 生命が羽ばたくとき ♪ 綿毛のたんぽぽ

♪ 花の装い風のうた ♪ 君をのせて

9. 戸田かおり、緒形めぐみ（フルート曲ピアノ伴奏付き）

♪ WISH

10. 島筒英夫（ピアノ、語り、一人二重奏）

♪ ちいちゃんのかげおくり

浦 富美（ソプラノ独唱）

♪ 夕暮れ ♪ 私と小鳥とずっと ♪ 地球

戦争に関する手記などの朗読と平和祈念コンサート

「世界へひびけ 平和のメッセージ」

事業の概要

「我孫子朗読の会有志」と「どんぐりどんぐら」の朗読2団体が、戦争に関する手記などの朗読を行いました。

コンサートでは、合唱や声楽、琴、ピアノとフルートのアンサンブル、ジャンパーとカカの合奏、オカリナ合奏、ピアノ演奏と語りなどで、10団体が平和のメッセージを伝える演奏発表を行いました。

開催日時：2005年10月22日（土）午後1時

開催場所：我孫子市湖北地区公民館ホール

アンケートの結果

【40代：女】大変良いイベントだと思うが、宣伝が少ないと思った。もっと市内外に広く知らせるイベントにしても良いのでは。宣伝（ポスター、チラシも目立たない）も、団体名より曲目の方が目をひくのでは？

【40代：女】いろいろな方の平和についての考えが伝わってきました。また、コンサートとしても変化に富んでいて良かったです。

【40代：女】平和であることが当たり前になってしまって、戦いの絶えない国々のニュースを耳にしても、対岸の火事となってしまう。当たり前の有り難さ、大切さを知るためにも続けることの必要性を感じます。

【50代：男】「祈念」の二文字に込められた想いどおりの歌声と生命尊重の詩の叫び（朗読）に、平和の祈りを感じました。平和な一刻に感謝！！

【50代：男】このイベントを企画された方々、ご苦労様でした。

【60代：男】誠に時宜にかなった良い企画でした。内容も広範なもので良かった。また何年か後に計画してください。

【60代：女】各々素晴らしかった。めばえ幼稚園、アカペラグループ良く頑張って感動しました。また来年もやってください。

【60代：男】良いコンサートでした。多彩で。もっと若い人々に聞いてほしいと思います。

【60代：女】イラクの自衛隊派遣、小泉首相の靖国参拝等、昔の軍国主義に戻りつつある様に思われてなりません。私たち戦争の体験者は、戦争の恐ろしさを若い人たちに伝えて行かねばならないと思って居ります。二度と恐ろしい戦争が起こらない様に・・・

【60代：女】小学校や中学校で戦争の体験をした皆さんを教室にお招きして「恐ろしいんだ戦争は」ということを話していただき、今の平和は先祖が苦勞した賜だということをお話していただきたい。

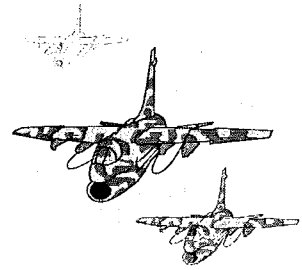
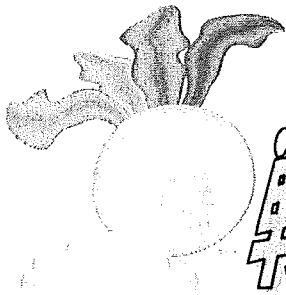
【60代：女】戦後60周年という節目に実施されたことは、意義深い。それぞれの団体が、主旨に合った詩・曲を選び語りかけ考えさせてくれる場となった。朗読・パーカッションなど、出演団体も幅広く楽しめた。朗読により、戦争直後の厳しい状況が伝わってきた。改めて平和の有り難さ、先人の苦勞をしみじみと感ずる機会となった。決して戦争はあってはならない。

【60代：女】戦争体験の無い若い人達はもちろん、体験者である私も5才と幼かったためか、今では記憶の彼方に薄れていっているように思う。そういう時、いつまでも忘れない。又、将来二度と起こしてはならないためにも、戦争に対して考える企画はとても大切なことだと思います。これからも続けてほしいと思います。

【60代：女】今日のコンサートは、どの団体も素晴らしかった。この催しを知らなかった人が多かったのではと残念に思います。小さい時から、戦争は「いけない」ということを、大人として伝えていかなければいけないと思います。私たちができることをしていきましょう。

【70代：女】複数の平和事業に参加し、締めくくりの会として素晴らしかったと思います。26年前、我が家から発足したグループの成長に感謝しました。

我孫子市戦後60周年記念平和事業

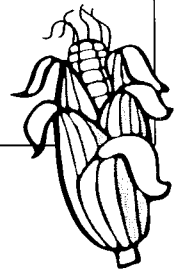


戦争中の食を体験しよう

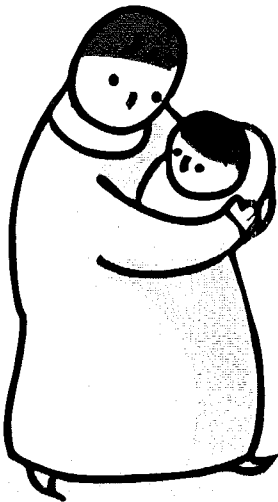
— 大戦当時の食の再現 —

市内在住・在学の小学生、中学生、高校生が大戦当時の食べ物を再現（調理）し、先着50名の皆さんに試食していただきます。

10月22日（土）11時30分から

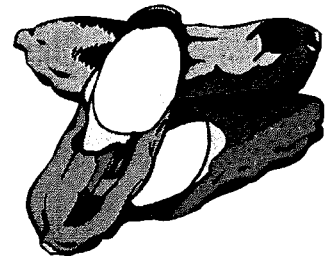


湖北地区公民館



参加費：無料

協力団体：我孫子市消費者の会



主催：我孫子市

問合せ：我孫子市企画調整担当 7185-1426

戦争中の食を体験しよう

(すいとんを食べて「戦争と平和」を考える)

イベントの概要

戦争中から、お米は配給制度（1人の分量が決められて、通帳と券が配られ、お金があってもそれ以上は買うことはできない）になり、戦後も食糧は足りなくて、日本人はいつもお腹を空かせていました。

「戦時のすいとん」と現代風の「具だくさんのすいとん」と2種類をつくり、来場者に試食いただきました。普段は、当たり前前に食べている食べ物を、平和のありがたさを感じながら、大切に食べるよう呼びかけました。

小・中学生とその母親たちも、調理や配膳に参加しました。

開催日時：平成17年10月22日（土）11時30分から

開催場所：湖北地区公民館

協力：我孫子市消費者の会

アンケートの結果

【小学生：女】今のすいとんがおいしかった。

【20代：女】すいとんという食べ物があるのは知っていましたが、今日はじめて食べてみて、意外とおいしくて驚きました。家でも作ってみたいです。

【30代：女】今の平和な時代が、当たり前でなかった時代をあらためて認識することができました。現代の食のありがたさを実感しました。

【30代：男】戦中のもの、現代のもの両方おいしかったです。

【40代：女】よい企画だったと思う。たまたま、戦争体験者（70代の方）とご一緒できたので、少しお話を伺いながらいただけたのが、私にとっては、よかったと思います。たまに、こういうことを通して、今の私達の平和をはじめとする、もろもろのことに思いを馳せるのは、大事なことだと思いました。

【40代：女】大変良い企画です。現代は豊かすぎて、感謝する心が足りないようです。満腹に1日3食食べられ、それ以外にも甘くて美味しいお菓子、デザート、果物等食べられることに幸せを感じ、無駄を出さずに、生活していくことを実感する機会となりました。子ども（小学2年）にとっても良かったと思います。

【40代：男】親から戦時中の話は聞いたことがありますが、この様な体験をしてみると少しは当時のことが感じられた気がします。あらためて現在の平和のありがたさを感じます。

【40代：女】何でも好きなものが充分、食べられる今の子どもたちには、なぜこんなものを食べていたのか理解できないでしょうから、考えるひとつの機会になるのでは...と感じました。

【50代：女】今日、食べ比べ、又、説明を受け関心致しました。皮付きの意味とか、ニボシもそのまま食べる意味は大変に良いことだと思います。企画とてもよかったです。

【50代：女】食生活の豊かさから食へのありがたさ、大切さが薄れ、なげかれる事が多くなって来ています。実際に当時のスイトンに近い味を食べることによって、ありがたさが感じ取ることが出来ることの機会を得られることは大切では、...

【50代：女】大戦当時のものと比かくし、現代がいかに恵まれているか実感しました。当時はこれよりもっと中味の良くないものを食べ、力仕事をしていたのだなあと、ダイエット流りの現代との差が解ります。

【50代：女】祖母が言ってたすいとんは、こういうものだったんですね。イモの茎は、さといもの茎を皮をむいて干したものを煮つけて食べさせてくれましたが、とてもおいしかったのを覚えています。子供達に、すいとんを作って食べさせてみようと思います。たしか、給食のなかに、「すいとん」というのがあったように思いますので、案外、なつかしがるかもしれません。

【50代：女】有意義な催しだと思います。戦中・戦後のすいとんは、もっとリアルに再現してもよかったです。今回のでも、具たくさんすいとんのおいしさが際立ちましたが。

【50代：男】大変良い企画を提案していただき、市民検討委員会の皆さんに感謝します。物があふれている現在、食も含め物を大事にしない風潮がありますが、考え直す必要があります。それと戦時中生きてこられた先輩方にご苦労様と言いたいです。

【50代：女】すいとんは良く食べました。北海道ではジャガイモとかカボチャに片栗粉を混ぜて食べています。戦後生まれの為おいしいイメージだけが残っていますが毎日だと大変だったなあ、今の幸せを感じています。戦争の時は大変なごちそうだったのでないかと思います。今の時代は何でも捨てる。物、食物などもったいないと云う気持を持って欲しいものだと思います。

【60代：女】ありがとうございました。2種類用意くださって！戦争最中と戦争直後のすいとんはこれほど美味しかったかと、なつかしく思い出しつつ、また材料のない中でいろいろ工夫して具沢山につくってくれていた母のことを思い出しつつ頂きました。スイトンの粉を使ったお団子は口当たりやわらかでした。

【60代：女】よい企画だと思いました。多分もっとまずかったかと思いますが現在でもこのようなものさえ食べるのできない世界の人々、子供達のことを思われました。

【60代：男】戦時中のすいとんと現在のすいとんとの2種類の比較しての試食大変懐かしく頂きました。大変良いアイデア体験と思います。現在は品物、食物は多く何不自由なしで育っていますので物の大切さ、食物の大切さを国全体で与えると同時に教育指導（幼稚園、小中高校）の中に取り入れて欲しい。

【70歳以上：男】飽食の時代に、このような企画、大変よかったです。（親）戦時の雰囲気を出すために、戦時中、戦後の写真等を部屋の周囲に飾ると、よかったですね。

【70歳以上：男】往時を忘れない為にも有意義です。

地人会上演台本

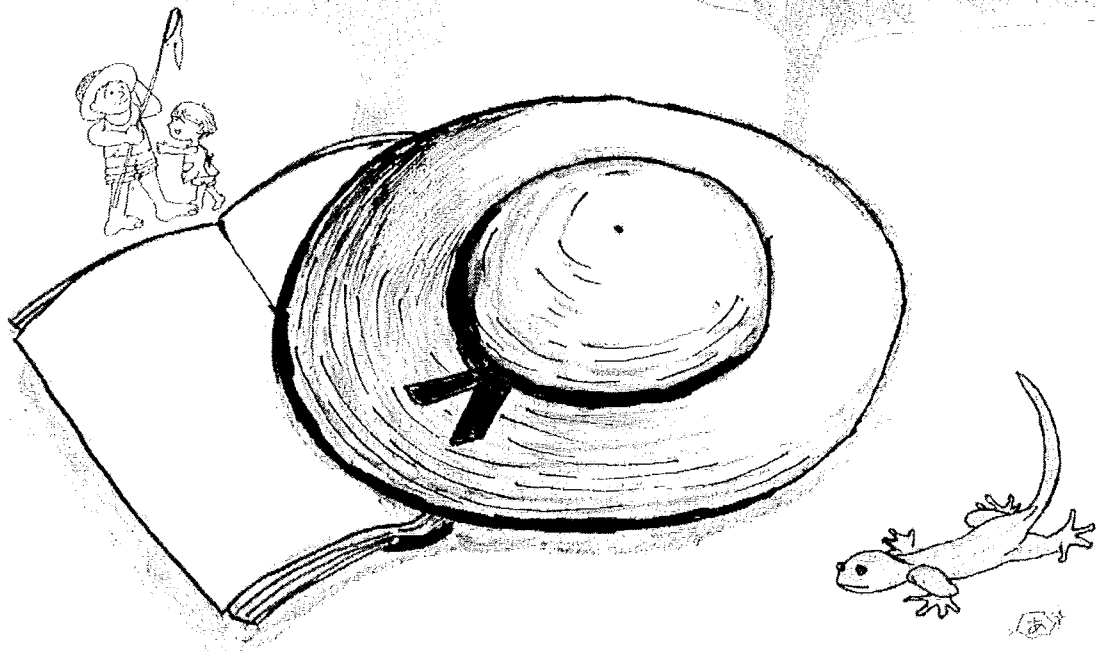
「この子たちの夏」による

この子たちの夏

1945年 8月

ヒロシマの夏・ナガサキの夏

—夏休みのなかった子どもたちの記録



主催 我孫子市

出演 どんぐりどんぐら 素語りの会

協力 演劇制作体 地人会

1945年 8月

ヒロシマの夏・ナガサキの夏

—夏休みのなかった子どもたちの記録

大野 敦子	山内 やよい	野田 順子	水津 洗一郎	京島 早苗	奥田 美々	スタッフ	吉田 真喜子	吉海 智子	山田 睦子	宮川 良子	星野 知子	西村 篤子	中村 君代	中川 裕子	寺田 美香	鈴木 真喜枝	斎木 梅枝	後藤 真理子	金澤 智子	大野 敦子	大格 萋子	青山 純子	出演

朗読劇「この子たちの夏」の中学校での公演

イベントの概要

60年前の「原子爆弾が投下されたあの日」を綴った子どもたちの、そして母親たちの手記、手紙、詩などによって構成された朗読劇「この子たちの夏」を、湖北中学校と我孫子中学校で上演しました。

この劇は、被爆40年にあたる1985年に演劇制作体地人会によって初演され、大きな反響を呼びました。地人会では「語り継ぐ」という行為を大事に、毎年夏に全国を巡演しています。しかし、自分達の声で朗読したい、子どもたちに見せたいという問合せが多く寄せられたことから、1990年から台本の頒布やスライドの貸出しを行うなどして、自主上演という形態を支援しています。

今回は、日ごろから子どもたちへの読み聞かせを行っている「どんぐりどんぐら」と「素語りの会」の皆さんに協力を得て、自主上演で実施しました。

湖北中学校

開催日時：2006年2月13日（月）午後1時45分～午後3時30分

開催場所：湖北中学校体育館

対 象：湖北中学校2学年生徒全員

我孫子中学校

開催日時：2006年2月17日（金）午前10時30分～午後12時10分

開催場所：我孫子中学校体育館

対 象：我孫子中学校1学年生徒全員

協 力：どんぐりどんぐら、素語りの会、演劇制作体地人会

アンケートの結果

【女子生徒】戦争を経験した人達の「ずっと平和でいてほしい」という願いはずっと守っていかないといけないと思う。その願い・思いは私達の世代が受け継がなければならない。

【女子生徒】戦争なんてキライだっっ！！！！ 消えちまえっ

【女子生徒】必死で生きていた人々がいたのに、今の人々は、簡単に人を殺してしまいます。それは、とても悲しいことだと思います。だから60年前のことを多くの人に伝え、少しでもこの世界を幸せでいっぱいになりたいと思いました。

【女子生徒】戦争の恐ろしさ、怖さ、むごさ、悲しさを感じました。今、この時に私達が生きていられる意味……。家に帰れば、家族が「お帰り」と迎えてくれて、炊きたての白米を食べられて、母の手作りのおかずがあって、本当に私達はしあわせなんだなあ……。と思います。

【女子生徒】いつもどおりの生活を奪われてしまうんだからとても辛かったと思います。いつもどおり帰ってくるはずの子供が帰って来てくれなかったり、さっきまで動いていた自分の体が動かなくなっていたり、目の前が真っ暗ですごく怖いと思います。

【女子生徒】戦争は人々が死ぬだけではなく、人々の心までも殺してしまうものなのだと思います。

【女子生徒】私たちは平和でいるのが当たり前になっていますが、地球のどこかでは今でも戦争が行われていて、たくさんの人たちが命を落としていると思うと、とても恐いです。私は前まで私になって関係ないと思っていましたが、1人1人が戦争について考えていけないと思いました。

【女子生徒】私の生まれるずっと前に、あんな残酷なことが同じ日本で起こっていたと思うととても悲しくて、信じたくない事実でした。

【女子生徒】戦争や殺人などで人が死ぬというのが一番人間にとって平和じゃなくすのではないか……。？と思いました。

【女子生徒】今後いっさい血を流すような戦いをしたくないと思う。

【女子生徒】“もしもあの子が自分だったら”と考えるみたらすごく怖くてさみしくて、とても耐えられませんでした。戦争の悲惨さ、苦しみは、何百年・何千年たとうとも絶対に忘れてはいけません。そして、当たり前だけれど、二度としてはならないと、心の底から、本当に願いました。国同士がどこもとても仲良く、素直になって、いつでも助け合える時が来ればいいな……。自分でも何かができればいいなと思いました。

【女子生徒】原爆1つで多くの犠牲者を出して目がつぶれてしまったり、皮膚がめくれてしまった人達のことを考えると、自分じゃなくて良かったと思いました、それがもし自分だったら生きることをあきらめていたと思います。

【女子生徒】戦争は人を苦しめ地獄に追い込むものだと思います。

【女子生徒】再び戦争という過ちは繰り返してはいけないと思います。どの国も平和な毎日を送れるように戦争なども起こさずしっかりとした毎日が送れるようになって欲しいです。

【女子生徒】戦争をけっしてしないように、1人1人が心がけて、戦争の悲しさむごさを子孫へどんどん語り続けていけないといけないと思いました。

【女子生徒】戦争は、国を守るためにしている国がほとんどだけど全ての国が戦争をしないという条約を作ることはできなかったのだろうか。

【男子生徒】何故、一般の人、女の人や子供まで被害を受けなければならないのか。ふざけてると思う。戦争なんてなくなってしまえ！

【男子生徒】これから高齢化が進むにつれて、戦争の話を知っている人が少なくなってしまうので、この話をきっかけに大人になっても戦争のこわさを覚えていたいと思います。

【男子生徒】今の日本は平和だ。少なくとも戦争はしていない。戦争なんて何のためにやるのか。人々を殺して何の意味があるのか。戦争で死んでいった人の無念さが伝わってくるようだ。今の

平和がどこまで続くかわからないけど、大切にしていきたい。

【男子生徒】戦争は絶対にやってはいけない事だと思います。戦争にはいい事など何もないと思います。お互いに殺しあって戦争が終わったとしてもその国はとても貧しくなって、食べる物もない、飲む物もない状態で死んでいくのです。だから今の僕たちはとても恵まれていると思います。だから戦争は絶対にやってはならないと思います。

【男子生徒】戦争で亡くなっていった人々のためにも、もう戦争はせず、世界の各国が仲良くしていければ一番よいと思います。そのためにも僕たち若い世代が戦争のことを語りついで、日本だけではなく、世界各国の争い事を無くしていかなければならないと思いました。

【男子生徒】原子爆弾は命を沢山奪い、家族や友達をばらばらにさせて最後に残ったのは悲しみだけだ。悲しみを残すのならばそんなものが必要がないと思う。僕たちはせっかく平和な世の中に生まれたのだからこの平和を一生守っていかないといけないと思う。二度と戦争などくだらないことを起こしてはいけない。

【男子生徒】劇を聞き終わった後、「生きよう」という言葉が頭の中に残りました。

【男子生徒】原爆で亡くなってしまった人々は、生きたいのに、命を落としてしまった。なのに、今の世の中、自ら命を落としてしまう人もいる。そういう人は、生きたいのに生きられない人に失礼だと思う。今日のお話の中で、命に関して、考えさせられる場面がいくつかあった。自分は戦争のない時代に生まれることができて幸せだと思った。だから、この命を大切に、生きていきたいと思った。

【男子生徒】全ての世界の国々が、核兵器等の人を大量に殺すような物を持たず、世の中が危なくなるような事件がなくなり、一人一人の人権を尊重できるような世の中になって欲しい。

【男子生徒】今の地球でも、危ない地域や核を持っている国があるが、また戦争が起きたりしないためにも考えを改めて欲しい。

【男子生徒】何の罪もない人々が周りで次々と死んでいくのはまさに生き地獄だと思います。

【男子生徒】アメリカは本当に恐ろしいものを作ってしまったと思います。こんなものはひつようであったのか？

【男子生徒】原爆を放つと全ての物が失われる。僕は、どんな事があっても戦争をせず、人々が平和に暮せるようになって欲しいと思った。

【男子生徒】一つの爆弾が一度にもものすごい人数の人をこの世から消してしまうなんて本当にひどい。どうして戦争が起きるのだろう。子供の僕にはわかりませんが、この世からなくなって欲しいと思います。二度と戦争が起きませんように、この世がずっと平和であって欲しいと思います。

戦争体験者による学校での講演会

事業の概要

市内各小・中学校の授業の中で、被爆体験や戦争体験をお持ちの市民に講演していただく事業を行いました。

希望があった小・中学校の授業で、「東京大空襲」や「広島・長崎での被爆」、「満州からの引き揚げ」、「我孫子での戦中の食生活・日常生活」などのお話を、直接体験された方々の生の声で子ども達に伝えました。

開催日：次表のとおり

開催場所：次表のとおり

学校名	学年	人数	テーマ	実施日	講師
第一小学校	6年	79人	東京大空襲	11月25日	豊村美恵子
第三小学校	6年	110人	被爆体験	12月20日	被爆者の会 清水 益雄 宮田 将則 大久保明次 中田 澄子
第四小学校	6年	146人	我孫子での戦争体験、戦中の食生活・日常生活	12月6日	田中 三也
並木小学校	6年	67人	東京大空襲	12月16日	豊村美恵子
布佐南小学校	6年	34人	満州事変での動乱・満州からの引き揚げ	12月8日	飯牟礼一臣
布佐小学校	6年	66人	被爆体験	2月10日	被爆者の会 大久保明次 青木 節子
白山中学校	2年	201人	被爆体験	3月7日	被爆者の会 清水 益雄 青木 節子 大久保明次

平和に関するビデオの学校での上映

事業の概要

市内各小・中学校において、戦争に関わる映像教材を取り入れた事業を実施しました。

子ども達が平和の尊さを感じるとともに、それぞれの心の中に、平和を進める一員であるとの認識が育つよう、戦争によって引き起こされる悲惨な事実の報道や戦争を題材にした物語、アニメなどのビデオ上映を行いました。

開催期間：平成17年11月～18年1月

開催場所：市内各小・中学校

「沖縄、学童疎開」

「火垂るの墓」

「連合艦隊」

「昭和の歴史」

「ヒロシマ」

「広島の証言」

「日清・日露戦争と日本の歴史」

「新しい日本の歩み」

「核戦争のもたらすもの、ヒロシマ・ナガサキ」

「ぼくの防空壕」

「そしてドンキーも死んだ」

「にんげん日本史」

「太平洋戦争」

「203高地」

「日本海大海戦」

「あなたにとって昭和とは」

原爆写真展

事業の概要

被爆者の会が所有する「広島と長崎の原爆写真」30点を展示して、原子爆弾がもたらす悲惨さや恐ろしさを、記録写真をとおして多くの市民に伝えることができました。

同時に、市民に呼びかけてお寄せいただいた「平和の折り鶴」約35,000羽も展示し、見ていただいた多く方の共感を呼びました。折り鶴づくりの運動は、小中学校、市民団体、福祉施設、個人など、津々浦々で取り組んでいただき、予想を上回る数の協力を得ることができました。

開催期間：平成17年8月15日～28日（アビスタ開館時間帯）

開催場所：アビスタのストリート

主催：我孫子市原爆被爆者の会、我孫子市

感想ノート 105筆から

- ・素晴らしい展示でした
- ・核兵器の開発と保有はやめさせるべきです
- ・原爆の残酷さを改めて再認識した
- ・戦争に正義はありません
- ・私の折った鶴も喜んでいきます
- ・美しくも悲しい千羽鶴よ平和の祈りを込めて世界にはばたいておくれ ほか

被爆60周年平和記念式典

事業の概要

毎年、継続して行っている事業です。

今年は、被爆60周年に相応しく、子供から大人まで市民各層から多くの参加を得た中、手賀沼公園内の平和の記念碑前で平和記念式典を行いました。式典では、折り鶴の展示、コカリナと太鼓の演奏、黙祷、広島派遣中学生の紹介と報告、手記「真白いごはんを」の朗読、我孫子市平和都市宣言の読み上げ、原爆記念碑への献花などを行いました。原爆を廃絶することや恒久平和の大切さ、また、それを後世に伝えていくことの重要性を再認識することができました。

式典終了後には、被爆者と参加者との懇談会を行いました。

また、この式典に向け、昨年7月1日から8月10日までの間、「折り鶴づくり」運動を市民に呼びかけましたところ、約35,000羽の協力をいただきました。

開催日時：平成17年8月20日（土）

記念式典 10時～11時

懇談会 11時30分～13時30分

開催場所：記念式典 平和の記念碑前（手賀沼公園内）

懇談会 アビスタ第2学習室

主催：我孫子市原爆被爆者の会、我孫子市

参加者の声

- ・式典には広島派遣の中学生も参加してもらい大変良かった
- ・中学生の話も良かった
- ・これからも永く続けて欲しい
- ・今年は60周年ということで多くの参加があったが、さらに輪を広げたい。ほか

「おかあちゃんもいっしょに行くからね」
と申しましたら、
「あとからでいいよ」と申しました。
「おかあちゃんに会えたからいいよ」
とも申しました。

1945年8月

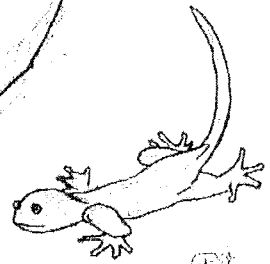
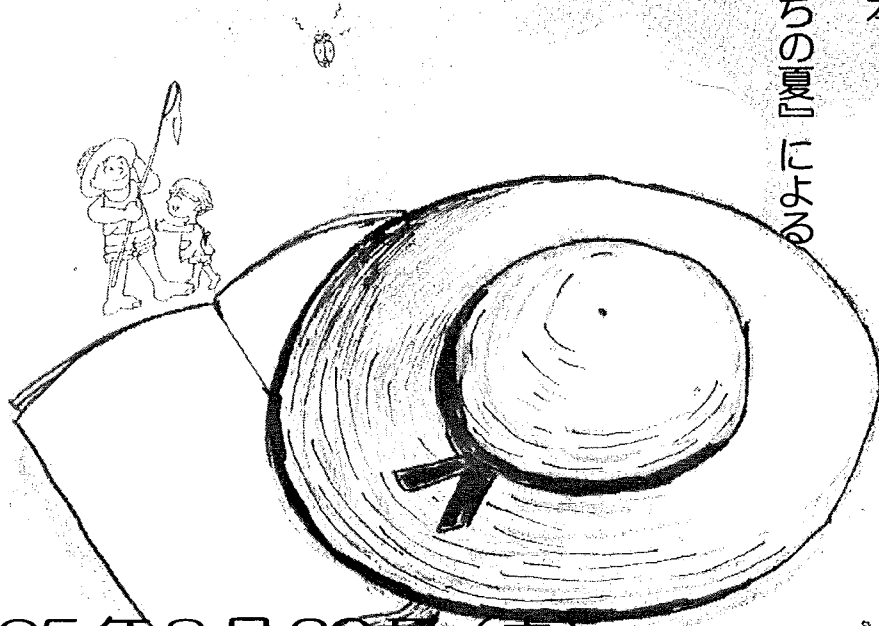
ヒロシマの夏・ナガサキの夏

—夏休みのなかった子どもたちの記録—

地人会上演台本

『いっしょの子たちの夏』

いっしょの子たちの夏



2005年8月20日(土)

アビスタ ホール

先着順・入場無料

開場 13:30

開演 14:00

問合せ先 我孫子市 企画調整担当

主催 我孫子市

共催 どんぐりどんぐら

素語りの会

協力 演劇制作体 地人会

演出	大野 敦子	水津 洗一郎	出口 由美	京島 早苗	スタッフ	吉田 真喜子	吉海 智子	山田 睦子	山内 やよい	宮川 良子	本多 千春	星野 知子	西村 篤子	中村 君代	中川 裕子	徳永 明子	寺田 美香	鈴木 真喜枝	斎木 梅枝	後藤 真理子	金澤 智子	柿山 雅代	大野 敦子	大格 萋子	奥田 美々	青山 純子
----	-------	--------	-------	-------	------	--------	-------	-------	--------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	--------	-------	--------	-------	-------	-------	-------	-------	-------

朗読劇「この子たちの夏」の公演

イベントの概要

60年前の「原子爆弾が投下されたあの日」を綴った子どもたちの、そして母親たちの手記、手紙、詩などによって構成された朗読劇「この子たちの夏」を上演しました。

この劇は、被爆40年にあたる1985年に演劇制作体地人会によって初演され、大きな反響を呼びました。地人会では「語り継ぐ」という行為を大事に、毎年夏に全国を巡演しています。しかし自分達の声で朗読したい、子どもたちに見せたいという問合せが多く寄せられたことから、1990年から台本の頒布やスライドの貸出しを行うなどして、自主上演という形態を支援しています。

今回は、日ごろから子どもたちへの読み聞かせを行っている「どんぐりどんぐら」と「素語りの会」の皆さんに協力を得て、自主上演で実施しました。

開催日時：2005年8月20日（土）午後2時～午後3時40分

開催場所：アビスタホール

協力：どんぐりどんぐら、素語りの会、演劇制作体地人会

アンケートの結果

【中学生：男】戦争は、他人を殺しちゃうから、二度とおこしたくない。

【20代：女】以前も朗読劇を拝見しましたが何度聞いても胸にしみるものがあり、是非、この活動を今後も続けていただきたいと願います。歴史を学ぶ良い機会ですので、…。体験者にしかわからぬ思いが語られているので、実際に体験者の叫びを聞いているような気分になりました。

【20代：男】とても感動して涙が出ました。映像だけでは伝えられないこともあります。是非今後も続けていって下さい。

【30代：女】すごく良かったです。戦争の事が心のイタミ 体のイタミがよくわかりました。場面が目にかんできてくるようでした。こんなにひどい事があったんだと改めて戦争に対し考えさせられました。

【30代：女】お疲れ様でした。市が主催で公演が出来るなんて素晴らしいと思います。私も他市で「この子たちの夏」を公演していますが、市が主催をしてくれたことはなく、全くの自費で自分達の労力で運営から公演準備をしています。読み手の人数も多勢でうらやましい限り。今後も続けていくことをおすすめします。私達も活動して9年になりました。事実を伝えて行くことの難しさ、大変さがあります。戦争があったことを全く知らない世代にも伝えたいです。物の大切さ、命の大切さ、…。公演を聴いていて気になったのが、言葉の速度。台本を持っていない人達の耳に入りやすいように、北村和夫さんの録音「広島二中」位の速度で読んでみてはいかがでしょうか？

【40代：女】広島で被爆した母をもち広島のとなりの山口に18までくらしていながら、戦争、原爆が風化してしまっていました。そのことに、ここに来て気づきました。戦後60年 世界で唯

一原爆を受けた国、戦争をしないと決めた国. . . 。もっと皆が興味を持たないと. . . 。せめて我が子には夏休みのこの時期に毎年、少しでも伝えたいと思います。

【40代：女】大変、良いことだと思います。小、中学生の方々につたえていきたい朗読劇ですね。他市から観にきましたが、我孫子市が様々な平和事業にとりくんでいることは素晴らしい事だと思います。キャストの方も、大勢、いらっしゃって熱演でしたが、もう少しゆっくり朗読していただくとよかったです。できたら、ひとりの方の手記は、ひとりの朗読者に読んでいただくとわかりやすかったです。本当に平和な世の中になって欲しいものです。そのために60周年だからというだけでなく、これからもずっと続けていって下さい！！

【50代：女】多くの実に多くの貴重な個人の命が、その肉親の命が絶たれたことが伝わりました。「あの冷たい川に入ったらどんなに気持ちが良いだろう」「こんなことならどんな山の中、土の中にでも入ったろう」の叫び！！白血病の悩みも知りました。アメリカで英語で行うことはしているのでしょうか。

【50代：男】平和主義の先人が「いかなる理由があろうと原子爆弾を使う者は悪魔でありサタンである！」と宣言しましたが、「この子たちの夏」の主張は万人に、心に深く留め置くことが大切と痛感いたしました。人としての生命尊厳の叫び！人間としての平和への希求の叫びに感動いたしました。

【50代：男】素晴らしい公演をありがとうございました。私はこの公演を観させていただく機会は3度目になります。その度に目から涙なくして聞くことが出来ません。現代に生きる子どもたちにも長く、永く、語りつないでいってほしいと思います。

【50代：女】大勢の人に読み 伝え続けていく事が大切ですね。戦後. . . 終戦、敗戦. . . いろんな考えがあつていいと思います。でも、あんなむごい事を二度とくり返してはいけません！あの子たちの未来をうばってはいけません！という事をしっかり伝えなければ。またいつか来た道をくり返そうという報道が目につきおそろしいです。世界中で戦いのない平和な時代を1日でも早く築き、天国の人々を安心させてあげたいです。どんな理由があつても人々の平和な暮らしをうばってはいけませんと強く思います。これからも「この子たちの夏」を続けて多くの人々と読み続けて下さい。

【60代：男】大変感動しました。被爆時の様子、その後の生きる苦しみ、白血病など悩みながらの生活が良く表現されていました。

【60代：女】毎年この時期、いろいろな所でこの朗読劇をしているのは知っていましたが、今回はじめて聞くことができました。日本の人口の大部分がもう“戦争を知らない子どもたち”です。けれどもあの戦争を経験した人たちの悲しみと苦しみは今でも消えることはありません。戦争は決してしてはならないと思います。軍備の永久放棄をうたった憲法は守りつづけられなくてはならないと思います。これからもずっと語りついでいってほしいと思います。

【70歳以上：男】戦争の悲劇を繰り返さない為に、戦争で失くなった人達が居て現在の平和があることを忘れない為に風化させない環境を醸成することに意を用いて下さい。

【70歳以上：女】戦争を知っている時代、学生時代の動員などを知っている者にとっては、とてもつらすぎるものでした。涙をかくすのに必死でした。二度とこのような事のない事を心から祈っております。皆様、本当に御苦勞様でした。

あびこ市民ミュージカル2005

平成17年度 AOPP (市民文化事業企画)
我孫子市戦後60周年記念 平和事業参加作品

バレンタイン・ドリーム

- ◆シェイクスピア作「ロミオとジュリエット」より、全32曲の音楽構成。
愛と平和のミュージカル！
- ◆音楽は、アニメ「アンパンマン」シリーズの作曲家・近藤浩章さん。

2005年8月27日(土)～28日(日)

我孫子市民会館

27日(土) 13:30 開演 Jr(ジュニア)組 (出演はすべて小学生)

17:00 開演 そら組 (大人・子ども全員出演)

28日(日) 14:00 開演 かわ組 (大人・子ども全員出演)

※開演は各30分前

●入場料:全席指定 500円 大人・子ども(3歳以上)同一料金

- ◆チケットは7月5日(火) 発売開始
- ※Jr組の公演は入場無料。ただし整理券が必要です。
チケット取扱い店と、
整理券の申込み方法は、裏面をごらんください。

【スタッフ】

脚本・作詞 若松 慎吾
音楽 近藤 浩章
演出 森 大吾
振付 泉 芳子、高橋美代子
仲 郁子、藤原まなみ
歌唱指導 鈴木 幸子
井上 香奈江
舞台美術 沼尻 昭子
Sound Adviser 丹保 剛
衣裳Adviser 澤久美和子

制作 あびこ市民ミュージカル2005実行委員会
実行委員長 野田 頂子
主催 我孫子市教育委員会
後援 あびっ子ネット
我孫子市子ども会育成連絡協議会
協力 我孫子合唱連盟

市民による
手づくり
ミュージカル
第2弾！



Illustrated by Kyoko Mori

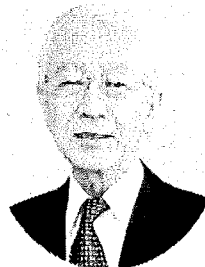
ごあいさつ

—「人をうらむ者は自らも不幸にし、人をゆるす者には平穏が宿る。」

私たち一人ひとりの心の持ち方に対して、愛と平和の大切さを投げかけてくれるミュージカルです。

2005年は終戦60年の節目にあたり、我孫子市でも平和記念事業として、多くの催しを連携して行いますが、明日の世代を担う多くの子どもたちが参加し、大人・子どもがいっしょになって歌い、平和とは何かを伝えることが出来れば素晴らしいことだと思います。

また、今回の配役はトリプルキャストが組まれており、小学生が大人と同じ演出や振付で、1ステージに挑戦します。子どもが、どの様に大人を演じるか、どれだけ大人の気持ちをだせるか、どんな舞台になるのかとても楽しみです。



我孫子市教育長
今関 敏男

【作品の特色】

●全32曲、音楽とダンスいっぱいの2時間

・すべての作曲は、アニメ映画「アンパンマン」の音楽を長年担当している、作曲家・近藤浩章さんが担当。いろいろな曲風がもりだくさんです。

●振付は市内4人の先生が

・バレエ、ジャズ、現代舞踊などいろいろなダンスの先生が、協力して振付を担当しています。特徴ある振付の競演も、みどころ。

●市内の合唱団もフィナーレに登場

・我孫子合唱連盟の協力で、市内の合唱団や一般公募の市民が、ラストシーンの1曲に参加します。「第九」のような大合唱が、ロックのサウンドで会場をつつみます。迫力あるフィナーレをご期待ください。

【スタッフ】(表面のつづき)

稽古ピアノ 鳴瀬 有香

ダンストレーナー 澤 麗子

舞台装置製作 有限会社山田建築

実行委員 石田光一、石塚優子、岡田京美、小畑友香里、久保田義行、鴻巣聡美、小柴洋子、今 義弘、峪口久美子、関 幸子、高久雅鼓、遠塚谷 秋、中谷めぐみ、沼尻和枝、平田百合子、船木志寿子、文岡由美、横山順子、櫻井 実 (教育委員会文化課)

●問合せ先 我孫子市教育委員会文化課 電話04-7185-1601

●実行委員会ホームページ 「あびこ市民ミュージカル」で検索してください。

【チケット販売所】

〔電話番号〕

- ・我孫子市民会館内 売店ひろがり
 - ・ミリオン楽器我孫子店(我孫子駅南口) 04-7185-0311
 - ・荒井書店 (天王台駅南口) 04-7184-1331
 - ・東京事務器 (湖北駅南口) 04-7187-1780
 - ・写真のおちあい (布佐駅北口) 04-7185-1515
- ※7月5日(火)、各店の開店時刻より販売開始

【Jr組(小学生公演)の入場整理券申込み方法】

- ①往復はがきに、観劇したい全員の氏名と、代表者の住所、電話番号を明記して
- ②〒270-1166 千葉県我孫子市我孫子1684 我孫子市教育委員会文化課 市民ミュージカル係へ
- ③7月7日(木)までに郵送してください。※当日消印有効
- ④はがき1通での申込みは4名まで有効です。5人以上の申込みをしたい場合は、複数枚のはがきを使用してください。※架空の申込みはご遠慮ください。
- ⑤返信はがきの宛名には、代表の方の住所・氏名をご記入ください。
- ⑥教育委員会で公正に抽選し、座席番号を記入して、7月15日までに返送します。
- ⑦当日は座席に余裕のある範囲で、入場ご希望の方に先着順で「当日座席指定券」を配布します。※当日席の有無は実行委員会ホームページに掲載。
- ⑧申込みはがきに記入された個人情報、個人情報保護法の法令に基づき利用・保護をいたします。

【あらすじ】

古い昔、ロブツの国はヴェラーザの町。

歴史ある2つの名門、カレンツァ家とバルミア家は、昔からいがみ合い、いざこざが絶えない関係であった。カレンツァ家の若者・ベルノは、舞踏会でバルミア家の娘・マリエットを好きになり、2人は町の神父によってひそかに結婚式を挙げる。しかしその直後に、両家の若者同士の決闘が始まり、ベルノも相手を刺してしまい、町から追放となってしまう。

バルミア家の当主夫妻は、同家と親しい関係にあるレモーナ卿と、娘マリエットを結婚させようとする。困ったマリエットは、秘薬の力で32時間の仮死状態になる。マリエットが死んだものと嘆く両親たちは、娘を墓へ入れる。神父は、この企てをベルノへ知らせようと走るが、わずかの差で、ベルノはマリエットが死んだという知らせを先に聞いてしまい、神父と行き違いにヴェラーザへ向かう。

マリエットが眠る、真夜中の墓地に忍び込むベルノ…。ベルノはまだ眠り続けるマリエットに別れを告げ、薬を飲んで倒れる。その直後に目を覚まし、絶望するマリエット。次々と重なる悲劇に、救いはあるのだろうか…。

ミュージカル「バレンタイン・ドリーム」の公演

あびこ市民ミュージカル2005「バレンタイン・ドリーム」

事業の概要

「バレンタイン・ドリーム」は、シェイクスピアの「ロミオとジュリエット」をもとに、32曲の音楽で構成された独自の作品です。

実施にあたっては、スタッフも参加者が担当し、まさに市民による手づくりミュージカルとなりました。原作は、死んだままで幕が降りるのに対し、死んだ2人がよみがえり、歓喜の合唱でフィナーレを迎える。憎しみや争いの心を捨てることの大切さが、平和につながるというテーマを来館者に感じてもらうものでした。

開催日時：平成17年8月27日（土）①13:00～ ②17:00～ の2回公演
平成17年8月28日（日）①14:00～

開催場所：市民会館ホール

主催：我孫子市教育委員会

制作：あびこ市民ミュージカル2005 実行委員会

参加者の声

27日	①	良かった	92.2%
	②	〃	83.0%
28日	①	〃	87.6%

『我孫子市戦後60周年記念平和事業』記念大会
第7回

国際交流スピーチ大会

入場無料



テレビ取材予定



日時 2005年9月25日(日) 12:30~

場所 あびこ市民プラザ ホール

記念講演 15:00~

ユネスコの活動 - 多文化共生を目指して -



(社)日本ユネスコ協会連盟 理事長 野口 昇 氏

主催 我孫子市国際交流協会(AIRA) 我孫子市
後援 (社)日本ユネスコ協会連盟・我孫子市教育委員会

申し込み・問い合わせ先(AIRA事務局) TEL 04-7183-1231

E-mail info@e-aira.jp fax 04-7183-2005



AIRA

我孫子市平和事業 記念講演会

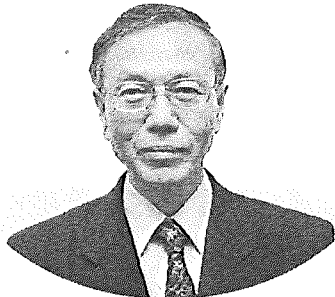
2005年9月25日(日)

15:00~ 入場無料

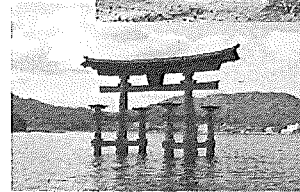
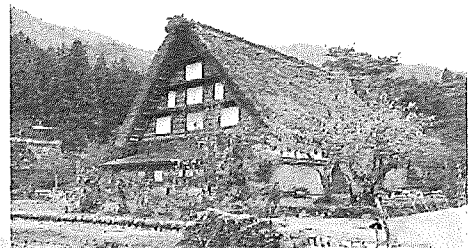
あびこ市民フラザ ホール

ユネスコの活動

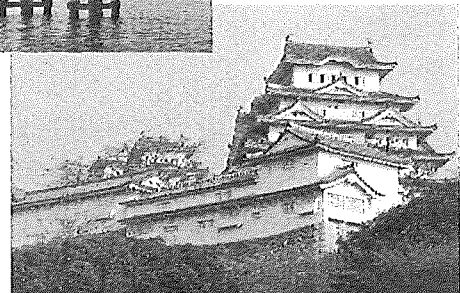
—多文化共生を目指して—



日本ユネスコ協会連盟
理事長 野口 昇 氏



世界遺産



「第7回国際交流スピーチ大会」
同時開催 12:30~ 入場無料

主催 我孫子市・我孫子市国際交流協会 (AIRA)

申し込み・問い合わせ先：電話 04-7183-1231

AIRA事務局) E-mail: info@e-aira.jp FAX 04-7183-2005

後援 我孫子市教育委員会

第7回国際交流スピーチ大会と記念講演

(国際交流と平和)

イベントの概要

市民のイベントへの関心を高めるために、開催日(9/25)の前後1週間はプラザのロビーと通路に、ユネスコ活動のパネルを展示しました。

今回の国際交流スピーチ大会は、テーマを「国際交流と平和」として開催しました。英語の部11名、日本語の部10名の計21名の方に発表して戴きました。年齢層では中学生から60歳代の方まで、男性8名(外国人3名)、女性13名(外国人3名)という構成でした。

審査の間、野口 昇氏にユネスコの概要と活動状況について記念講演をしていただきました。「自国の文化と歴史を愛することは、他国の異なる文化と歴史を理解し、尊重することにつながる。そうすることにより環境は違っても人間はみな同じであることを認識でき健全な文化交流ができる」と結ばれました。

7名の審査員による公正な審査の結果、次の各賞となりました。

[(A)英語の部、(B)日本語の部、敬称省略]

1. 会場審査員賞 (A)齋藤紀正 (B)范 暁菁、2. AIRA 会長賞 (A)田中 圭 (E)田口慶子、3. 教育長賞 (A)山口愛都生 (B)庭野瑛子、4. 市長賞 (A)前野桜子 (B)綿引康一、5. 日本ユネスコ協会連盟賞 (A)田中麻理沙 (B)金 冬梅、6. 中央学院大学学長賞 (A)坂本めぐみ (B)シ rilル プレマシリ、7. 審査員特別賞 (A)5名 (B)4名
市長賞には、英語の部・日本語の部とも中学生が選ばれました。英語の部の前野さんは「小さな一歩から」という題で、「9.11 事件に端を発し、アメリカがアフガニスタンとイラクを攻撃したことを捉え、アメリカが好戦的であるとの批判が出始めています。しかし、私の3年間の米国留学の体験から、アメリカ人の親切さと明るさを知っています。この事実を伝えるために私に出来ることは、世界の人に親切にし、愛し尊重することです。小さな一歩ですが世界平和に向けた大きな一歩だと信じています。」とスピーチしました。

また、日本語の部の綿引さんは「本当の広島」という題で、「私は、我孫子市の代表の一人として、今年広島平和記念式典に参列しました。広島平和記念資料館で見た原爆の資料で、戦争の恐ろしさを知りました。核兵器で保たれている平和は、真の平和とは呼べないと思いました。国際交流を活発にし、お互いを理解することが平和への道だと思います。この考えを世界へ伝えていきたいと思います。」とスピーチしました。

開催日時：2005年9月25日(日) 12:40~16:30

開催場所：あびこ市民プラザ 多目的ホール

主 催：我孫子市国際交流協会、我孫子市

後 援：我孫子市教育委員会 (社)日本ユネスコ協会連盟